

〔漢方療法シリーズ〕

不妊症における漢方療法

防衛医科大学校
産婦人科講師
戸出 健彦

はじめに

不妊治療の場で例えば排卵誘発は日常的に行われているが、これはその患者の生殖能力を大局的立場からとらえて行う治療法とは言い難い。漢方医学は女性の不妊原因を「陰血虚弱」、すなわち生殖能力の虚弱化にあるとする。不妊症患者の多くは基本的に生命力の低下した生体反応性に乏しい体質（虚証）である故に個人の本来、有する生殖能力を賦活増進させて妊孕力を回復させようと努めるのが漢方療法である。したがって現代医学的不妊治療との併用で相乗的效果が期待できる。

現代医学的不妊治療のかかえる問題点

1) 排卵障害の治療において過剰刺激や多胎妊娠などの副作用のほかに排卵誘発がただちに妊娠成立、および妊娠維持に結びつかない事実がある。また、いわゆる機能性不妊に対して有効な治療法が確立していない。

2) 視床下部 下垂体 卵巣系の機能異常の原因として海馬を介したストレスの影響が考えられる。しかしストレスに対しては精神心理療法のほかに有効な治療手段をもっていない。

3) 近年、過度のダイエットなど思春期のみならず幼少期からのライフスタイルの乱れが指摘されている。その結果、思春期以後の女性において低体温（冷感性）や気力が出ない、疲れやすいなど虚弱体質が増加しており、不妊症患者にこの傾向が強い。半健康ともいえる虚弱体質に対して有効な治療手段をほとんどもっていない。

不妊治療に漢方療法を取り入れる利点

1) 漢方医学はその病理概念の中にストレス負荷状態に相当する病態の認識を有しており、抗ストレス剤ともいえる処方が存在する。

2) 虚弱体質の改善は漢方医学の得意分野である。

3) ホルモン賦活調整作用を有した処方があり、単独、又はクロミフェンとの併用で妊娠到達率の向上が期待できる。

漢方療法に必要な基本概念

1) 生体恒常性を維持する基本要素

気：生命活動の根元的エネルギー。精神と肉体の機能的活動を統括制御する。

血：気の働きを担って全身を巡る赤い液体。血の循行が滞った状態を「瘀血（おけつ）」とよび、精神不安定や月経障害など精神身体症状を生じる。婦人科領域で重要な概念である。

Key words : Antistressor ・ Infertility ・ KAMPO-medicine ・ KI-deficiency ・ Stress

水：気の働きを担って生体を潤し栄養する無色の液体¹⁾。

2「五臓」という概念

精神と肉体は不即不離（心身一如）と考え、心身一如の機能単位として五臓（肝，心，脾，肺，腎）という器官を設定している。五臓は相互に制御し合いながら生体恒常性を維持している。ある臓器の機能異常は他の臓器の変調をきたし、気血水の失調状態を招く。

生殖活動に関与する主な臓器と相互関係（図1）

1) 腎：直接的に生殖活動に関与する。成長発育にも関わり、思春期以前に最も活発に働く機能単位である。

2) 肝：思春期以後に働きが活発化してくる。精神活動を制御安定化させ、血を貯蔵し、全身に栄養を供給する。また、筋肉のトーンスを制御する機能単位でもある。腎の機能レベル低下（腎虚）は肝の機能異常を引き起こす。

3) 脾：食物を消化吸収し気を産生する。血の生成、循環を制御する。生命現象維持に極めて重要である。肝の影響を強く受け、機能失調（脾虚）により気のレベル低下（気虚）や血の生成不足（血虚）を生じる。臨床症状として抑うつ、易疲労、月経障害などの精神身体症状が出現する。肝と脾はストレスの影響を最も受けやすい機能単位でもある。脾虚は結果的に腎虚を招き、排卵障害など生殖機能障害を惹起する。なお、心、肺も血の生成循環や水の生成などに関与する重要な機能単位であるがここでは詳細説明を省略する。

不妊症に対する漢方療法の基本

患者の呈している症状を漢方医学的概念を通して整理分析し、下された診断（証）に基づいて治療する。

1) 気血の補充

基本的に虚証が多い為にまず気血の補充（補気，補血）をはかる。さらに瘀血の改善（駆瘀血）を考える。

2) 抗ストレス療法として脾，肝の機能補正をはかる。

3) 現代医学的立場から患者の異常パターンに応じて作用機序の確認された処方（当归芍薬散，温経湯，芍薬甘草湯*，他）を選択する。結果的には証に合致した時に、より有効性を発現する。

漢方療法に用いる主な処方（図2）

証を決定し、多数の処方の中から適応方剤を選択するにはある程度、漢方医学理論の知識が必要となるが、上述した治療方針に沿って頻用される処方についてのみ列挙し概説する。

1) 補中益気湯；気を補充しながら脾虚を改善する。使用目標：虚弱体質で全身倦怠，食欲不振，動悸，不安感などがある。言葉に力が無い，眼に勢いが無いのが特徴である。

2) 十全大補湯；気虚，および脾虚を改善するが血虚の改善効果が強い点で補中益気湯と若干，異なる。使用目標：疲労倦怠感，食欲不振，顔色不良，手足の冷え，貧血などの症状がある。

3) 六君子湯；脾虚，および気虚を改善する代表的処方である。使用目標：胃腸虚弱，易疲労，貧血症で冷え性である。

*：現時点において、効能又は効果としては保険上の適応はありません。

4) 紅蓼末；高麗人蓼を熱加工したもので著明な補気作用，および駆瘀血作用を有する．現代医学的には強力な抗ストレス作用の報告がある²⁾．保険診療では他の漢方処方との併用が義務づけられているが，体質の如何を問わず使用可能の為，ほとんどの処方と併用でき，相乗的な併用効果が期待できる．

5) 加味逍遙散；肝の機能異常を補正する．駆瘀血作用も有している．ストレスが負荷された病態に有効で無排卵周期症に用いて効果を認めている³⁾．使用目標：比較的虚弱で冷え性，易疲労，精神不安定でイライラや不眠などが特に月経周期に関連して出現する．季肋部に軽度の圧痛（胸脇苦満）を認める．

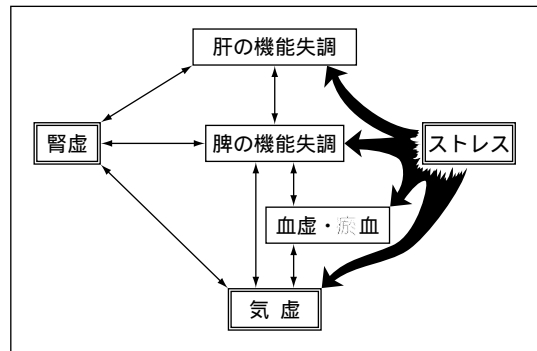
6) 柴胡桂枝乾姜湯；肝の機能失調を補正する．神経症の傾向がある人にストレスが加わった病態による．卵巣機能不全に有効性を認めている³⁾．使用目標：虚弱体質で冷え性，イライラ，不眠など精神症状を認める．腹部は軟弱で軽度の胸脇苦満と臍上部に腹大動脈の拍動（臍上悸）を触れる．

7) 芍薬甘草湯；肝の機能を補正する．多嚢胞性卵巣症候群を含む高アンドロゲン血性の無排卵に有効である⁴⁾．使用目標：平滑筋の攣縮によると思われる疼痛がある場合，特に月経痛に対して当帰芍薬散との併用が有効である．腹部触診で両側腹直筋の攣縮を認める例が多い．

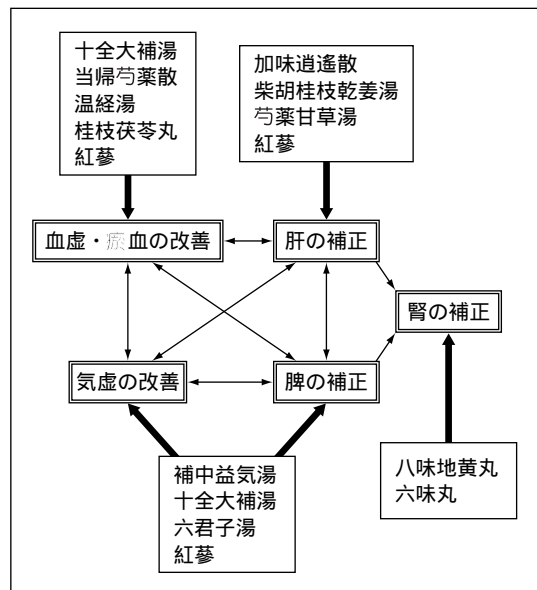
8) 桂枝茯苓丸；駆瘀血剤の代表的処方である．使用目標：月経周期異常や月経困難症を認め，肩こり，目まい，下半身の冷えなどを訴える．のぼせ性で赤ら顔のことが多く，体力は中等度，下腹部に抵抗圧痛を認める．

9) 当帰芍薬散；単独，又はクロミフェンとの併用により排卵，妊娠率向上が認められる．下垂体レベルでゴナドトロピン分泌を促進する⁴⁾．高プロラクチン血性卵巣機能不全にも有効性が認められる³⁾．近年，海馬に作用して抗ストレス作用を発現する可能性が示唆されている⁵⁾．女性の聖薬ともいわれ，瘀血，および血虚改善作用が著明である．使用目標：虚弱体質で冷え性，貧血傾向がある．月経周期に伴って「水」の偏在（水滯）による浮腫傾向や頭重感，目まい，肩こりなどを認める．流早産予防にも使用する．

10) 温経湯；視床下部に作用して LH-RH の放出を介してゴナドトロピン分泌を促進



(図 1) 生殖機能に及ぼすストレスの影響と臓器の相関関係



(図 2) 頻用処方とその主な作用点

し、その律動性分泌を調整することで排卵を促進する⁴⁾。著明な駆瘀血作用を有している。使用目標：当帰芍薬散と異なり、水滯の徴候はほとんど認めない。比較的、体力は低下しており、下肢が冷え手のひらはほてる。肌荒れ、特に口唇の乾燥を認める。冷えによる下腹痛を訴える。

男性不妊に対する漢方療法

造精機能障害が原因の大部分を占めるが、現代医学的薬物療法の効果は十分でない。漢方医学では「陽気不足」、すなわち性的無力化を男性側不妊の原因としている。対応策は基本的に女性不妊に対するものと同様で、十分に気を補給し、ストレスへの対応として肝、脾の機能補正を行う。補中益気湯や十全大補湯に乏精子症に対する有効性が認められる⁶⁾。また、直接的に腎虚を改善する目的で八味地黄丸や六味丸が使用される。さらに紅蔘末に乏精子症に対する効果が認められており⁷⁾、抗ストレス作用と相まって併用効果が期待できる。

おわりに

現代社会に特有のストレスは男女の生殖能力を減退させる大きな要因の一つである。著明な抗ストレス作用を発現し、生命力を増進させ、生体恒常性を回復維持せしめようと働きかける漢方療法を現代医学的不妊治療に取り入れることは極めて有用である。

《参考文献》

- 1) 寺澤捷年．症例から学ぶ和漢診療学．東京：医学書院，1990
- 2) 戸出健彦，菊池義公，平田純子，喜多恒和，中田英之，永田一郎．卵巢癌術後化学療法施行患者と重症更年期障害患者の神経内分泌免疫系に及ぼす紅蔘の効果 抗ストレス作用を中心に ．The GINSENG REVIEW 1998；25：101 106
- 3) 假野隆司，古殿正子．西洋医学的に診断した卵巢機能不全不妊症1,000例の「証」の分析 第2報；西洋医学的解析．和漢医薬学雑誌 1996；13：396 397
- 4) 青野敏博，苛原 稔，安井敏之，邢 福祺．無排卵と漢方．産婦人科治療 1991；63：191 194
- 5) 鳥居塚和生．ストレスと漢方 卵巢摘出更年期モデル動物を例にして．JAMA 日本語版 付録 1999；9：22 23
- 6) 廣瀬雅哉，野田洋一．シンポジウム 不妊と漢方療法 乏精子症に対する漢方の効果．産婦人科漢方のあゆみ 1997；XIV：35 47
- 7) 石神襄次．ニンジンの臨床的応用 生化学的作用と関連して(1) 乏精子症とニンジン．代謝 1973；10：590 595